

# 市民後見人とは？

**市民後見人とは、親族や専門職ではなく一般市民の方が一定の研修等で後見人として必要な知識や心構え等を身につけ、本人の身近な立場で成年後見活動を行う後見人です。**

国分寺市では平成30年度に初めて市民養成講座を開催し、令和2年度に第二期生を養成しました。

平成17年度～25年度まで東京都が養成した修了生を合わせ、延べ42名が修了し、内26名が現在後見活動メンバーとして登録されています。

市民後見人は今まで累計9件の受任実績があり、現在は1件受任中です。

いずれも国分寺市社協が監督人に選任され、財産や後見業務の状況等を3か月に1回確認しています。

## ●活動をはじめたきっかけ

退職後、地域の中で社会貢献したいと思い地域に目を向けた時、高齢化に驚き社会的なサポートが必要だと思ったことです。

## ●受任して良かったこと

短期間の受任でしたが、できるだけ対応をしてお見送りできたことです。短かったが故に、一日一日の活動がとても色濃く記憶に残っています。

## ●今後に向けて

少子高齢化に伴い、住民同士の支え合いがますます必要になります。被後見人に寄り添う市民後見人の役割は大きいと思っています。

山本俊治さん

(平成30年度 市養成講座修了)



## 市民後見人の活動報告

令和元年に受任した  
お二人にインタビューしました



## ●活動をはじめたきっかけ

たまたまテレビで観て市民後見人という存在を知りました。社会福祉に関しては全くの素人でした。

## ●どのような後見業務をしていましたか

月2回施設訪問しました。コロナ以前は外出や美味しいものを食べたいという希望を叶えられるよう工夫しました。コロナで面会できなくなってからは、スタッフとの連絡を密にして差し入れの際にお手紙を添えていました。

## ●監督人との関わり

監督人である社協にその都度適切な指示や確認をしてもらいました。被保佐人の体調不良が続いた時や入院時も対応方法の助言をいただき安心して活動できました。

## ●印象的だったこと

ヘルパーさんと3人でコーヒーショップに行った時の笑顔や、一緒に施設の夏祭りに参加した時の楽しそうな様子。共通の趣味の読書でコミュニケーションがとりやすく、スタッフから「以前より明るくなった」と言われた時は嬉しかったです。

Aさん

(平成25年度東京都基礎講習修了)



## 被保佐人の入所施設職員より

### コメントをいただきました

細やかに本人の様子を確認され、趣味・嗜好に沿えるよう親身になって生活の質の充実を考えてくれて、ご趣味の本の差し入れもしていただきました。施設職員としても色々と相談しやすく、対応もスムーズでした。いざという時の医療同意の難しさは後見人全般の課題ですが、最後まで一緒に対応できて心強かったです。

## News

### 国分寺市社協も法人後見を始めました！

令和3年4月に法人として初めての審判が下り、保佐人としての活動が始まっています。業務は権利擁護センターの職員が担当し、身上保護や財産管理を行っています。

今後も市民後見人に移行していけるケースや、最後のセーフティネットとして社会福祉法人としての使命を果たすため、可能な範囲で受任していく予定です。

**ぜひお気軽に  
お問合せください。**

成年後見制度に関して、推進機関である権利擁護センターでは以下のような支援をしています。

- 成年後見制度に関する一般的な説明（内容によって専門相談をご案内します）
- 申立書類の作成に関する助言・確認 ※P6へ
- 申請書類や手引書等の配布（「後見サイト」よりダウンロードもできます）
- 候補者の調整・紹介（専門職を交えた事例検討会を開催し、助言を受けています）
- 後見人のサポート（親族後見人情報交換会の開催など）